令和6年度第3回調布市地域福祉推進会議 議事録

令和7年1月23日(木) 午後6時半から

調布市文化会館たづくり10階1002学習室

【出席者】

- 1 出席委員：18人（Web出席を含む）（欠席1人）
- 2 事務局・関係部署出席
福祉健康部（福祉総務課，生活福祉課，高齢福祉担当，介護保険担当，障害福祉課
子ども発達センター）
子ども生活部（児童青少年課）
- 3 傍聴者：1人

【議事次第】

- 1 前回会議の振返り
- 2 令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の報告について
- 3 令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の評価方法について
- 4 その他事務連絡

【当日配布資料】

- ・資料1・・・令和6年度地域福祉コーディネーター事業等報告書
- ・資料2・・・令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の具体的取組（抜粋）
- ・資料3・・・令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の評価について
- ・資料4・・・地域福祉コーディネーター事業等の評価シート

【開会】

○会長 皆さん、こんばんは。新年おめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

去年は1月1日からすごいことが起こったのですが、今年も何か地震はあるし、各国の政治が物すごい勢いで動いている感じがしますね。平穏な1年であることを祈っていますが、なかなかそうならないかもしれないという感じがいたしております。

今日は、主に地域福祉コーディネーター事業について御報告を受けながら、皆様方の御意見をいただきたいと思っております。

それでは、議事の1つ目ですが、前回会議の振り返りについて、事務局から説明をお願いいたします。

議事1 前回会議の振り返り

○事務局 それでは、前回会議の振り返りをさせていただきます。

前回会議では、令和5年度の地域福祉コーディネーター事業活動報告書について、また、地域福祉活動計画について御説明いただきました。その説明に対して、会議終了後に御意見シートという形で、御意見、御質問をいただいておりますので、回答させていただきます。今回、3点御質問をいただいております。

まず、1点目、地域福祉コーディネーターの横のつながりについてです。令和5年度は欠員が出た地区があり、実績が減っていたというところで、その状況をやはり注視すべきだろうという御意見、その中で、欠員が出たり、そういったトラブルがあった際の対応、横のつながりについて、どのようなことを行っているのかという趣旨で御質問をいただきました。こちらは地域福祉コーディネーターから御説明いただければと思います。よろしくお祈りします。

○委員 御質問どうもありがとうございます。地域福祉コーディネーターの横のつながりについては、やはり地域福祉コーディネーターで、昨年度、産休等で欠員が出て、実績の数字的に減少した点であったり、もともと横のつながりとしても、課題と、強化していかないといけないという視点では、担当変更等による引き継ぎで、その担当が替わったときに、どれだけその地域の情報とか、これまでの積み重ねを減らさずに引き継いでいくかという点。あとは、各担当の地区ごとで若手やベテランであったり、前職とか異動前の職場での経験とは、様々多岐にわたるような形で配属されている中で、その平準化と、

あとはそれぞれの強み、弱みをどう生かしていくかという点で、やはり地域福祉コーディネーターとしても担当された地区の案件を全てその地区の担当がこなすということではなく、横のつながりが必要だと考えております。

欠員についても、やはりそこの地区の担当していた職員がいなくなるという点では、実績、数字的にもそうですし、地域の関係づくりにかかる時間も当然減少するという点は引き続き課題として捉えながら、その点をどうほかのメンバーでカバーするかというのは、しっかり御意見のとおり注視すべきだと捉えております。

あわせて、現在、高齢の分野から地域支え合い推進員という立場の職員も社会福祉協議会で同じ地区を担当として配置していただいているところで、前回の報告書自体は地域福祉コーディネーターのみの数字ではあるのですが、そこには載ってこない地域支え合い推進員でのカバーと、ほかの圏域の職員によるカバーで、地域の方々にとっては、大きく数字とは違うところで落とさないように努めて対応させていただいております。

あわせて、社会福祉協議会の中だけではなく、地域包括支援センターであったり、子ども家庭支援センターの職員さんのカバーもあって、地域福祉コーディネーターが不在で、ほかの地区の担当であったり、地域支え合い推進員の対応でも、ほかの機関の方々にもカバーしていただいて、支援ができていますと捉えております。

また、地域福祉コーディネーターの対応のスキルの平準化もなのですが、様々な地区の特性だったり、求められるものという中では、必ずしもみんな同じようなコーディネーターが同じようなスキルを持って平準化されるというのが全ていいとは限らないかなと捉えておりますので、やはりそれぞれの強みを横のつながりを持ちながら、カバーし合いつつながら、調布全体を支援していくというところを大切に、その結果、担当変更による引き継ぎでの充実もしっかり視点として捉えながら課題と向き合っていきたいと捉えております。

○事務局　ありがとうございます。それでは、2点目の御質問に回答させていただきます。

2点目は、情報共有の際の本人同意についてです。情報共有をする際に、当事者本人から情報提供に係る同意や承認はどのように得て、どのように情報を共有しているのかを伺いたいという御質問をいただきました。こちらについても、地域福祉コーディネーターからよろしいでしょうか。

○委員　個別支援等に関して、他機関と情報共有する際についてなのですが、当

事者と言われる方については、2パターン分けさせていただいて、相談者が当事者やその家族だった場合、要は直接的に本人が我々に相談していただいている方に関しては、しっかり本人に情報提供や共有先をお伝えするのと、お話を伺った内容の情報の範囲をどこまで伝えるかは必ず本人に同意を取って、その上でその情報のみを関係機関のほうに共有というところで、本人同意をしっかり重視して行っております。

ただ、我々の地域福祉コーディネーターの特性として、地域住民の方から本人等にはまだつながれないけれども、こういう困っている人がいるというつなぎの場合に、本人にすぐつないでいただけるのであれば、まずはつないでいただいた上で、本人の同意を取ってというところですが、例えば近隣トラブルであったり、本人が支援介入を拒否しているケースで我々が受けた際に、我々の観点として、もしその方に対して、相談支援機関が既につながっている、もしくはつながろうとしているという段階で、地域の方から相談を受けて、我々がそこにつながっているであろう支援機関の確認もなく強引に介入してしまうと、もしその既に関わろうとしていた機関が本人に対して、とてもセンシティブに介入している段階で、かき回してその動きを壊してしまう可能性があるというところは我々は気をつけないといけない。

当然本人の同意は取れない範囲で、地域の方からこういう情報が入って、この方について支援を既にしてはいますか、もしくは支援に入ろうとしているというか、状況を聞いて、その程度によっては、情報をこちらとしては判断して、基本的には詳細までは伝えずにその会話が終了することもあれば、もし関わっている度合いが大きければ、こういう相談が地域から話していますというのは、通報という形でその機関のほうに通報して、あとはその機関が動くのか、地域福祉コーディネーターがこのまま動くのかは、その機関と共有して、その判断によっても情報提供する範囲をしっかり相手方であったり本人の状態を見ながら、最大限気をつけながら情報共有は行っております。

○事務局　ありがとうございます。最後に、3つ目の質問です。こちらも委員の方からお答えいただければと思いますが、精神疾患を抱えるケースにおけるこころの健康支援センターとの関わりについてということで、前回会議で御報告をいただきました令和5年度の事例の中で、精神疾患を持たれた方々が多く見受けられました。その際、このこころの健康支援センターとの関わりがあまりないようでしたので、その点はなぜなのかということと御質問をいただいております。よろしく申し上げます。

○委員　御質問どうもありがとうございます。地域福祉コーディネーターの相談支援で

あったり、地域づくりにおいてこころの健康支援センターと連携するケースは実際にあります。

その中で、精神疾患等を抱える方の相談を受ける際には、これも段階によって様々変わってくるかと思いますが、障害をお持ち、もしくは精神疾患等を抱えている方で、相談支援に全くつながっていない方の相談を地域福祉コーディネーターで受けた際の対応と、既に支援機関につながっている方の相談を受けた対応はまたちょっと変わってくるかと捉えております。

まず、つながっていない方に関しては、1つ我々のほうでもこころの健康支援センターであったり、障害福祉課さんにつなぐという観点の中で、そこにスムーズにつながれるケースはあると思います。本人がしっかり支援をお願いして、たまたま相談の入り口がCSWだったり、地域住民を通して地域福祉コーディネーターにつながられて、そこからこころの健康支援センターであったり、障害福祉課さんを紹介するケースはあります。

ただ、なかなかその土台に上がらない精神疾患を抱えた方については、こころの健康支援センターにつなぐ前のつなぐにはどうしたらいいか地域福祉コーディネーターが抱えている際には、こころの健康支援センターにもこういう方をつなぐ場合にどういう対応になるかは、日頃から間接的に情報を教えてもらいながら、我々是对応の中でつなぐ努力をしているというところでも、見えない連携という形にはなるかと思っております。

また、既にこころの健康支援センターにつながっていた場合に関しては、こころの健康支援センターの相談支援者、担当者のほうもCSWのような生活面のケアをしているので、こころの健康支援センターにつながっていた場合は、必ずしも地域福祉コーディネーターが繋がらないと、その方への支援が充実しないかという点、そうではないという状態ではあるかと思えます。

ただ、今後、こころの健康支援センターの相談者が枠の中で支援をして、それでもやはりもっと地域の中での資源を使って、その方が生活していくという点で、こころの健康支援センターの利用者さんが社会参加をする、地域参加をしていくというところで、地域福祉コーディネーターと、こころの健康支援センターで連携をしながら、その参加支援をより充実していくことは必要かと思えますので、その点に関しては、よりこころの健康支援センターと連携を深めながら、個別の相談支援と地域づくりにつなげていくところを一緒にやっていきたいと思えます。

ただ、こころの健康支援センターにつながる、もしくはつながった時点で、複雑化、複

合化した状態からは解消が早いかなという印象があるので、こころの健康支援センターにつながっていた場合は、そこまで複合的な課題が困難なケースとして事例としては挙がりにくいので、こういった報告書にこころの健康支援センターの名前が挙がってこない傾向も少しあるかと捉えております。

○事務局 前回会議でいただきました御質問についての回答は以上とさせていただきます。

○会長 ありがとうございます。何か今の回答について御質問、確認したいことはございますか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

かなり丁寧にお話をいただきました。ありがとうございます。

それでは、次に、議題の2つ目、令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の報告について説明をお願いいたします。

議事2 令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の報告について

○委員 30分ほどで報告をさせていただけたらと思います。

まず、資料1を御覧ください。令和6年度地域福祉コーディネーター事業報告書、令和6年12月末時点の資料を御確認ください。今回、報告に当たって、12月末までの数字、もしくは質的成果、ただ、今1月から3月にかけて少し予測的にぜひ皆さんに御報告したい内容も少し入れさせていただいておりますが、あくまでも12月末時点の数字等を報告させていただきます。

まず、1ページ目の相談支援について、◆のところでは、アウトリーチ等を通じた継続的支援の取組と、4ページの多機関協働の取組として、相談支援は大きく2つに分けさせていただいております。

まず、アウトリーチ等を通じた継続的支援の取組について、目標の部分はちょっと省略させていただきますが、2ページ目、エ、成果、数字の目標としては、団体等への働きかけ154件、場の構築の検討で64件とさせていただいております。今回、質的成果も情報量がたくさんになるため、大分省略させていただいておりますが、総合的に見ていただけたらありがたいと思います。

ここの場の構築の検討であったり、団体等への働きかけについては、まず相談の窓口だけが相談を受ける場所ではなく、やはり地域住民や関係機関それぞれが様々な相談を受け

たときに、そこが横つなぎになって、地域福祉コーディネーターや多様な分野の相談支援機関にしっかりつながっていく、相談の受け皿を広くしていくというところと併せて、アウトリーチの場所が増えれば増えるほど、日常で困っている方が誰かに相談して、どこかの支援機関につないでいくといった場が広がっていくというところに向けた働きかけを行っております。

今回、子ども食堂や子どもフードパントリー等も地域支援の中で、現在、38か所に増加しております。我々が立ち上げに関わった団体もあれば、地域福祉コーディネーター等が立ち上げに関わらないケースで38件挙がっておりますが、もし立ち上げに我々が関わっていないところも活動している情報を得たら、御連絡、御挨拶に伺って、やっている会のごときに運営者に挨拶して関係をつくって、もし気になる参加者がいたら、我々にぜひつないでくださいというPRも併せて行っております。

また、より子ども関係の部署とも連携が充実してきている関係もあって、相談支援だけではなく、こういった子ども食堂等の参加も子ども家庭支援センターや児童虐待防止センターも含めて、ヤングケアラーコーディネーター、あと地区の児童館、子育てひろばの職員等も子ども食堂のほうにも実際、足を運んでいただいて、子ども食堂の運営者とそれぞれの専門機関自体も顔が見える関係に、以前より発展してきているかなというところを我々のほうもコーディネートさせていただいて、相談がつながりやすいインフォーマルな資源と行政等のその関係のつながりも、体制整備として意識して、心がけて実施をいたしました。

続いて、(2)地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知として、地域福祉コーディネーターは、様々な属性の方々に対して、啓発、PRを行っております。PRも地域福祉コーディネーターのPR、役割を知ってもらうだけではなく、様々な社会課題、もしくは地域生活課題等を伝えながら、こういう相談があった場合は、ぜひつないでください、もしくはほかにも様々な相談機関があるので、ぜひ住民の方がそれを受け止めたら、どこかに相談してくださいというような形で、様々な内容でいろいろPR、啓発のほうを行っております。

その質的成果としては、現在、地区協議会や地域の中の集合住宅、団地であったり、修道院主催のイベント等に社会福祉協議会としてボッチャの体験ブースなどで、ボッチャの体験等だと子どもさんが寄りついていただいて、楽しく体験して帰っていただいている。地域の中で社会福祉協議会も高齢の方やシニア世代の方々とのつながりは大分昔から増え

ているのですけれども、やはり若い世代にどう社協を知ってもらおうかというところでは、こういった形でPRして、日頃福祉に関わる活動に参加されないような方が地域のお祭り等のイベントに参加した際に、しっかり我々のことを知っていただく、また、我々を知ってもらっただけではなく、その地区の子ども食堂の情報であったり、地域のボランティア活動の情報も併せて来場された方にお渡しして、まずは知ってもらおうというところを啓発のほうに心がけております。

また、3ページの2点目、地域の世代間交流等の目的で、社会福祉協議会のほうで小地域交流事業で様々な、13か所でお祭り等を行っておりますが、そこにも新たに立ち上がった子ども食堂に出店していただいたり、こころの健康支援センターの利用者さんで結成したボランティアグループをボランティア部として、そこに手伝いに入っていただき、こころの健康支援センターを利用されている方と、実行委員であったり、地区協議会のメンバーと一緒にテント等を立てて、汗水垂らしてお祭りを完成させる。お祭りを準備する、もしくは当日交流することで、自然と子ども食堂を知ってもらい、もしくはこころの健康支援センターに通っている利用者さん自体と一緒に汗水垂らして、そもそも相談で、精神疾患を持った方が実際に一緒に同じ作業をすることが我々としても最大限理解につながるのではないかとということでも、そこをしっかりとつなぎながら、こういったイベント等の開催でPRを行っております。

我々自身、啓発というと、何かイベント、講座とかフォーラム等で精神疾患を持っている方を理解してくださいという言葉で理解をお願いするのではなく、やはりこういった同じ体験をする場に参加していただいて、その過程でPRされるほうが一緒に動いた方々にはより伝わるのではないかとということでも、PRの仕方も工夫が必要だと日頃意識して行っております。

続いて、多機関協働の取組で、4ページから5ページにかけてです。

5ページの成果のところでは、圏域別専門職等ネットワーク会議としては4回、ただ、8圏域あるうち、4圏域で合同で行ったエリアもございます。それは1回としてありますが、4圏域の専門職の方々に参加いただいて、その1回を開催しております。その中ではグループに分かれて、圏域ごとでの時間をつくったりというような形も行っております。

また、富士見地区のほうでは、地域の民生委員さんであったり、児童養護施設、小・中学校の先生、あとは福祉関係者と地域の子どもの食堂等のボランティア、地域団体の方々に、地域の子どものたちの状況を共有し合う子ども連絡会等を5回行っております。また、重層

的支援体制整備事業の支援会議自体を12月までに1回開催しております。

また、以上のものは様々な機関が一堂に会した連携会議という形を取っておりますが、我々密な情報交換をするためには、1つの機関と地域福祉コーディネーター、ないし地域支え合い推進員で情報交換の機会をつくっていききたいというところで、多摩府中保健所、児童虐待防止センター、子ども家庭支援センターすこやか、社会福祉事業団の部署のほうですね。あと、こころの健康支援センターとの情報交換を1回行っております。

社協内でいうと、調布ライフサポート、生活困窮の部署と子ども・若者総合支援事業のここあと地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員としても、情報交換を1月に実施、これからする予定となっております。様々な機関と1対1の情報交換も併せて今年度も実施しております。

質的成果については、一部読んでいただけたらと思うのですが、5ページの下段の一番下の黒点のところです。相談支援機関等との情報交換を行うことで、それぞれの機関の役割について理解を深めるとともに、不登校やひきこもり、支援拒否（医療中断）、複合化・複雑化した地域生活課題の現状並びに参加支援の場等のインフォーマル資源のニーズを確認するという点で、様々な視点で意見を交わして、様々な機関同士で深める機会となったかと思えます。

その結果、相談支援機関の地域活動や当事者会、家族会等の見学をするという運びになったケースもありますので、やはり機関同士でこういった情報交換をして、より情報を知ってもらうためにも、現場に一緒に行く等で、より連携を強めている傾向があるかと捉えております。

続いて、参加支援で6ページ以降ですが、成果のところは7ページです。参加支援を簡単にお伝えすると、個別のニーズで社会的孤立等で社会参加が必要な方を地域の資源等につないでいくというところで、個別の相談ニーズを地域であったり、インフォーマル支援につなぐという点では、ただ今あるものにつなげるだけではなく、地域づくりをやっている過程で、個別ニーズに合った住民主体の活動を増やしていく。個別の相談支援の部分と地域づくりの部分をもっと一体的に進めていく必要があるかなという点で、まず参加支援としては、複合課題を有するケースで、本人、家族に対して地域福祉コーディネーターが対応する件数と、そのケースに対応するための地域住民や専門機関等の受け皿になるようなところの件数として、成果として挙げさせていただいております。数字は7ページに書いてあるとおりです。

1つだけちょっと説明させていただくと、質的成果の1つ目の黒点なのですけれども、地域包括支援センターと連携して支援する若年性認知症の当事者の方に対して、当事者自身はまだ介護保険は使いたくない、介護の認定を受けてもサービスは全くという方で、ただ、支援者としては、この方が今の状態のまま生活というよりは、まずは介護保険は使わなくても、常設の居場所の参加につなげさせていただいて、そこで支援者ともつながったり、地域のボランティアの方々とつながって、見守りを行っていただく。やはり介護保険だけが全ての方々のニーズを充足するものではないという反面、いつか介護サービスにつながるタイミングを地域の方であったり、ここで出会う支援者が早めに早期発見をしてつないでいくと。

その上で、この方のケースに関しては、当事者等も常設の居場所の中で、自分に合ったものであったり、周りの方々が状況を察して、この方が活躍できる内容を考えてもいいのではないかとこのところ、地域包括支援センターと常設の居場所の方と当事者の本人、家族を合わせてどういったものの内容の企画があるといいか作戦会議に至ったところです。

1人の方が常設の居場所の中でも何か刺激を与えてくれて、より常設の居場所のほうも充足していくというケースですし、そういった個々のニーズを地域の方々、地域で活躍する方々の力を借りながらしっかり進めていき、この方だけではなく、恐らくその方を通してできた企画に対しては、ほかにもいる介護保険等はまだ使いたくないという認知症の方等の参加先になるかと思えます。

そういったところでも、こういった動きを、プロセスも大事にしながら、地域で活躍していただいているボランティアさんとの関係もしっかり作りながら進めていくということが参加支援に大事なことかなというところで、この事例を挙げさせていただいております。

続いての項目ですが、7ページから9ページの頭にかけてです。狭間のニーズに対する受け皿の拡充に向けた取組として、社会福祉法人や企業等及び既存の社会資源等への働きかけというところで、8ページに成果を書かせていただいております。

質的成果のところ、市内の社会福祉法人が運営する知的障害者援護施設であったり、株式会社が運営するサービス付高齢者向け住宅等に訪問し、施設の概要であったり、こちらの地域の情報を共有する機会をつくらせていただきました。

その中でも、施設からも地域貢献をしたいなどや、地域と施設がどうつながっていくかという思いも聞く中で、我々のほうも地域で行われている福祉活動、もしくは地域の福祉

に限らないイベント等の情報で、そういった場所に様々な企業や社会福祉法人の方も参加されている、逆に地域の方々が施設の中に入って何か活動していくという事例等も共有させていただきながら、今後、社会福祉法人であったり企業の方々の可能な範囲での地域貢献と地域のニーズにも重ねながら、もしくは個別の課題のニーズに合わせてながら資源を一緒につくっていくというところでも、まずはこういったところに関係づくりをさせていただいて、情報交換を続けていきながら、より充足していく取組につなげていきたいというようなところですよ。

もう一つのほう、ちょっと簡単になのですけれども、商工会であったり、青年会議所等に加わっている方で、単純に地域住民で青パトをやられている方なのですが、起業されている方が学校の夏休み期間中にキッチンカーで子ども食堂を期間限定でやりたいというところに対して、基本的にはこの方自身が全て調整したのですが、一部の地区はマッチングさせていただいたり、子ども食堂とのコラボに少し関わらせていただきました。

その中でも子ども食堂の現状をその方にしっかり伝えさせていただいて、結果的にはその企画が終わった後に、夏休みよりも後、その連携した子ども食堂には、備品を寄贈していただく形にも広がりました。

企業の方々にも一緒にこのような企画にプロセスの中で関わる上で働きかけを行うことで、その方々がその企画が終わった後にも地域のことであったり、地域で開催する子ども食堂に何かできることがないか少し働きかけをすることも、1つ我々の役目としては大事だったのではないかと考えております。

続いて、9ページの地域づくりに向けた支援として、こちらもちよっと数が幾つかあるので、ぜひ時間があるときに全て見ていただけたらと思うのですが、まず、(1)でいうと、10ページです。量的成果のところでは、様々な団体であったり、企業、商店も含めて、約260団体に対して、1,080回の働きかけを行ったとありますが、こちらに関しては、実際に地域生活課題を、一緒に何か取組を行うことであったり、自治会の活動に少し参加させていただいて、立ち話の中で、地域の現状であったり、様々な地域で起こっていることをこちらから積極的に情報共有、もしくは働きかけという形で提供させていただいた回数を挙げさせていただいております。

1つ目ですと、大型マンション等の管理組合のほうで、やはり大型マンションで何か取組を行ったとしても、住戸同士のつながりがとても見えにくいであったり、見守りとして何か困っていそうなときも、ピンポンを押して入っていくというのが少し難しく閉鎖的

だという課題のある管理組合では、地域包括支援センターの方と連携をしながら、管理組合と少し打合せをしまして、相談窓口についての案内チラシを配布、掲示して、その過程で管理組合のほうもより見守りをどうこのマンションでやっていくかの意識が高まったという事例で、ニーズに対して、1つこういった動きをする過程で働きかけを行っていくというところも大切かと考えております。

1つの事例は省略させていただきます。

続いて、10ページの(2)地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備としては、今年度、11ページの量的成果に関しては、ひだまりサロンが4つ新たに立ち上がっております。ひだまりサロン以外の交流の場も15か所、常設の拠点の検討とありますが、これ自体は昨年度からいろいろと検討が進んでいった中で、今年度立ち上がった常設の居場所が4件ございます。こちらに関しては、地域福祉コーディネーターだけで立ち上げたのではなく、様々な機関で立ち上がっていたところに加わらせていただいたものも含めさせていただいて、4か所とさせていただいています。すみません、ちょっと時間もありますので、内容のほうは見ていただけたらと思います。

あと、ひだまりサロンの4か所と、4件増えているというところではあるのですが、反対に、件数はちょっとあれなのですが、スタッフの高齢化により閉じたサロンも4件以上ある状態ではあります。ただ、新たな立ち上がりとして、数が減るということが悪いことではなく、1つ、ひだまりサロンを運営してきていただいた方々がようやく卒業して、新たな世代がそういった支え合いで、こういったひだまりサロンを開催していくというところと、また、ひだまりサロンという形だけではなく、それ以外の形での交流の場が15か所増えているという点を踏まえると、地域の方同士で集まって、何かしらつながりづくりをするという機会としては増加になっていると捉えております。

12ページ、(3)についても、地域生活課題に対する講座であったり、地域福祉コーディネーターが講師となって依頼を受けて、地域福祉のことだったり、様々な地域の資源を紹介する場、もしくは地域福祉コーディネーター事業の説明等で講師を8回行ったり、勉強会への参加、先進事例の視察等を地域の方々と一緒に地域福祉コーディネーターが同行して参加するということで、啓発と視察等を行っております。詳細はお読みいただけたらと思います。

13ページ、(4)大学との連携という形で、令和3年度より調布では、ルーテル学院大学の地域福祉ファシリテーター養成講座に加わらせていただいて、実施をしております。大

学の専門的な講座の実施と、あとは地域福祉ファシリテーターとして、地域、もしくは地域福祉に関心のある方が集まり、様々な視点で講座を経て、地域の中で実際に実践をしていくという点で、やはり人材確保という観点でも、こういった機能を活用しながら、我々のほうも調布の住民の方と出会わせていただいて、その方々も卒業した後、様々な形で地域の中で実践を積み重ねていただいているというところでございます。

成果については、今年度、講座自体は11回として、調布の4期生が5人参加していただいて、5人とも無事に修了しております。

また、令和5年度、令和4年度、令和3年度、それぞれ1期生、2期生、3期生も、その後、チームで検討、1期生同士で検討を行って地域活動等をしたり、もしくは、それぞれが自分のエリアで自分の関心のあることを取組として行う等、様々な形で数としてこの件数を挙げさせていただいております。

質的成果、14ページに関しては、1期生とは昨年度、地域づくり勉強会として、地域づくりと防災を掛け合わせた勉強会を行いまして、1期生主催で地域でつながるための地域づくり、地域でつながるためにはというところで、1つ防災をテーマにしたのですけれども、そこに集まった方々と何度か試食会等を行って、より地域で、平時で自分たちができることは何なのだろうかというところを回を重ねて、勉強会が終わった後、仲間同士でいろいろと情報交換をする機会をつくっていただいております。

調布2期生の1人の方は、現在、小学校のPTA会長をしていて、いずれ子どものことや介護のこと、家庭のことを保護者同士でつながり合う茶話会を立ち上げたいと家庭教育セミナー等を実施して、段階的に保護者同士の居場所をというところで、検討を進めていただいております。

3期生についても、ごみ拾いとか手工芸のワークショップ等で、その方のスキルを生かした活動で地域の方に向けて何か自分のできることをということで、活動をスタートしていただいたり、3期生の1人は、起立性調節障害の子のいる親の会を定期的にしたり、ほかの団体の不登校の親の会等と連携を深めるネットワーク化として、つなぎ合わせる機会を活動で充実して、ただ自分の活動をするだけではなく、学校であったり、家族会、もしくは社会福祉協議会等のネットワーク化をコーディネーター以上にコーディネートしていただいている方などもいらっしゃる状況です。

(5)については、新たな居場所を支援し、もしくは既存の居場所の拡充として、今年度補助金を支給するというところで、現在、新たな居場所の立ち上げで、今年度立ち上がる

活動と、既存の常設の居場所のほうで拡充を希望される方に、その補助金の支援とともに、その拡充の部分で地域福祉コーディネーターのほうで相談をしながら、そこでそれぞれ進めていくというところで、質的成果のほうに詳細を書かせていただいております。こちらが報告書です。

資料2のほうを見ていただいて、令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の具体的取組として、資料にまとめさせていただきました。我々のほうも先ほど様々な目標に対して行ってきたところで、伝え切れない内容は、こちらのほうに記載させていただいております。

全て説明はしませんが、12月末時点で、新規個別相談件数は、1ページ目の322件、地域支援の相談に関しては、ちょっと飛びますが、5ページ目の上段の成果として、新規地域支援相談件数346件、これに関しては、昨年と同等ぐらいの数字、もしくは昨年よりも多い数字にはなっているかと思えます。ただ、1月、2月、3月の件数によっては、昨年と同等ぐらいの数字に落ち着いてくるかなと見込んでおります。

その中でも、皆様にお伝えしたい事例等をここに載せさせていただきましたので、ぜひお時間があるときにこちらの具体的取組の成果のほうも併せて見ていただいて、評価していただけたらと思えます。

私からの説明は以上とさせていただきます。

○会長 ありがとうございます。丁寧に説明していただいたのですが、御質問がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。どうぞ、お願いします。

○委員 今、最後のところにもありましたけれども、重層の支援会議が実績としては1件だったというところで、これは各市町村も今、重層を実施しているところは模索していると思うのです。調布の場合はどのケースを支援会議、あるいは重層的支援会議に上げる、上げないみたいな判断は、どこがやっていらっしゃるのかということと、1件と数字だけ聞くと何か少なく感じるのですけれども、その辺り、社協として関わる中で、どう解釈すればいいのかということをお教えいただければというのが1つです。

もう一つは、恐らく今日の成果報告の中にはなかったと思うのですが、去年の6月にやった日本地域福祉学会で、調布市社協は、コーディネーター全員が参加されていたっしかったです。そういったところはないので、かなり抜群の存在感だったのです。なので、ちょっとその辺りも、あれは聞いたところだと、各自が個人的に参加しているというよりは、業務として参加したと聞いております。

また、学会発表で、実践と研究の往還をするということは、実践の質の向上ですとか、成果の評価、可視化という点でも非常に重要かと思しますので、場合によったら、今後、私たちもそういった方向性をバックアップできたらと思いますし、報告書の中にも明記していただいてもいいのかなと思いました。

1つは質問で、もう一つは御検討いただけたらということで、意見を述べさせていただきました。

○会長 ありがとうございます。どうぞ。

○委員 質問ありがとうございます。

支援会議については、福祉総務課さんにも補足していただけたらと思いますが、現在、地域福祉コーディネーターが多機関協働者として、様々なケースであったり、様々複雑化、複合化した支援ニーズを抱える方の世帯について、様々な機関と連携して、既に相談支援を行っている中で、やはり支援の中で、今関わっている関係者がもっとほかの分野の方も参加して、一堂に会して様々な個人情報を、ふだん個人情報として共有し切れない関係者等をお呼びする内容に少し絞らせていただいて、支援会議に上げさせていただいております。

もちろん、複雑化、複合化した支援ニーズを抱えた世帯に対してのところ、日頃から支援会議を使わずに、関係者がもう既に固まっているケースに関しては、様々なカンファレンスの形で支援会議をしています。やはり支援会議の個人情報を適切に取り扱う上での機能としては、なかなか単純なカンファレンスでは招集し切れない専門職に加わっていただくために活用させていただくという形で、今年は1件開催させていただいております。

昨年度の実績でいうと、戸建てで隣合わせる家庭の支援者同士が、それぞれの家庭が影響し合っているという点で、子どもの家庭と8050の家庭の世帯が少しトラブルに発展しているというところで、8050の高齢であったり、50の支援者で、子どもの家庭からすると、本来は個人情報としては共有は少し難しいと思いますし、逆もしかりで、8050の世帯に関わっている専門職の方々は子どもの分野の支援者と基本的には情報共有はしないところではありますが、それぞれの了解を取った上で、それぞれがその分野ではない、隣に関わっている専門職と情報共有しないと、自分たちの支援にもプラスにはなっていないというところが一致した上で、通常情報共有し得ない分野同士が支援会議を行って、ケースの共有と検討を行った等も、この支援会議を使って実施させていただいております。

この支援会議が数が増えるのがいいのか、もしくは通常のカンファレンスと少し差別化

をしながら、より段階的な機能としてなっていくのかというところをやりながら、今後も検討して、どちらに向かっていくかは、しっかり見定める必要があるかというところは、1つ今後の課題と検討する必要性のある部分かと捉えております。

○事務局 事務局の福祉総務課から補足させていただきます。

まず、冒頭に御質問いただきました、こういったケースを支援会議に上げるのかという点ですが、基本的には、複雑化・複合化した課題であるということです。また、調布市の場合は、相談支援機関同士の既存の連携体制が整っているということを踏まえ、既存の連携体制では対応が難しい、多機関協働事業者による調整が特に必要なものを支援会議に上げることとしております。

具体的には、福祉総務課と社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターで定例の打合せの場を持って、こういった事例は支援会議に上げられるのではないかと調整をしています。

事務局からは以上です。

○委員 あわせて、日本地域福祉学会のほうにも地域福祉コーディネーターと地域支え合い推進員のほうで参加させていただきました。

毎回参加しているわけではないのですけれども、現在、重層的支援体制整備事業の実施であったり、今、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員が8人ずつそろった上で、今後、地域福祉コーディネーターも地域支え合い推進員もどのような分野であったり、どのような役割が求められているのかは時代の変化に伴って、しっかり見定めていかないといけない。8人ずつそろった段階で、今後を見据えていかないとというところで、1つそういった学会のほうで様々なテーマで様々な方々が研究発表をしている場ではあったので、全てのお部屋は見られないですけれども、みんなで散らばって関心のあるところに行く。様々な視点であったり、ヒントをいただくために参加させていただきました。

その中には、調布において、今課題であったり、生きづらさを抱えている方の社会参加であったり、中間指導的な部分、あとは子どもの体験の格差等も、我々のほうでも地域のほうで広げていく。その結果、子どもだけではなくて、子育てをしている世代であったり、中には30代、40代の方で体験をより求めている方とか、様々な支援としても、いろいろな角度で地域づくりを行っていかないといけない。様々な研究内容がある大会でしたので、今回参加させていただいて、様々なヒントをもらったので、その点は引き続きと思えますし、ぜひ先生方であったり、様々な分野の専門の方にもいろいろ教えてもらいながら、

我々の地域福祉コーディネーターの今後もしっかり考えていきたいと考えております。どうもありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。ほかに御質問、あるいは御意見ございましたら。

(「なし」の声あり)

それでは、コーディネーターの報告がありましたけれども、次の議題に進みたいと思います。

3つ目です。令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の評価方法について、事務局から説明をいただきます。ここでまた質問がいろいろ出る可能性があると思っているのですが、お願いします。

議事3 令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の評価方法について

○事務局 令和6年度地域福祉コーディネーター事業等の評価について、説明させていただきます。

資料は3番をお手元に御用意ください。まず、なぜ地域福祉推進会議において、地域福祉コーディネーター事業等の評価をいただくのかについてお話しさせていただきます。

この地域福祉コーディネーター事業は、国と東京都から補助金の交付を受けております。令和5年度からは、重層的支援体制整備事業交付金として交付を受けておりますので、学識有識者や現場有識者である皆様から第三者評価をいただきたく、毎年評価シートの作成をお願いしております。

また、評価結果につきましては、次年度以降の事業計画、事業の実施、また地域福祉コーディネーターの日頃の取組に活用させていただきますので、項目が多く、皆様に御負担をおかけしますが、資料4番としてお配りしております評価シートの作製に御協力をお願いいたします。

それでは、資料3の1、評価方法等についてということで、評価に当たりましては、先ほど議事の1番で、委員から御説明をいただきました資料1番と資料2番を御覧いただきながら御記入いただければと思います。

具体的な評価シートの記入方法について、(2)以降で御説明いたします。

まず、資料4番、評価シートをお配りしておりますが、こちらの1ページ目に令和6年度のコーディネーター事業全体に対する総括評価、意見を記入する項目がございます。先ほど委員から御説明いただきました内容を踏まえて、事業全体が目標を上回る効果があっ

たかどうか、目標どおりの効果だったか、目標よりも効果が低かったかという観点から、◎、○、△の3段階で評価をいただければと思います。

さらに、評価の理由や具体をイの意見記入欄、評価欄及び検討課題欄に御記入いただければと思います。こういった取組が成果として認められるのではないかとであったり、こういったところが課題なのではないか、また、改善点としてこういったことが考えられるのではないかとといった様々な御意見を、御記入いただければと思います。

続いて、ウの令和6年度における個別の事業に対する評価等についてです。

地域福祉コーディネーター事業といっても、先ほどの説明にもありましたとおり、様々な取組がございますので、個別の取組に関して、それぞれ評価をいただければと思います。記入方法については、総括評価と同様に御記入いただければと思っております。

評価シートは、本日、会場にお越しの皆様には紙でお配りしているほか、データでもお送りしておりますので、紙で御提出の方は、書き切れない場合は別紙に御記入いただいて、データで御提出いただく場合には、エクセルのセルを広げていただくなど、適宜編集をしていただければと思います。

続いて、提出方法ですが、令和7年2月25日火曜日、本日から約1か月後までに事務局まで御提出いただければと思います。提出に関しては、データをEメールでも結構ですし、紙ベースを事務局まで御提出いただいても結構です。

なお、第12期の委員の皆様は、基本的にはメールアドレスを事務局に届け出ていただいておりますので、データで様式をお送りしておりますが、市からの添付データ付きのEメールはクリプト便という形式で送られますので、データのダウンロードに期限がございます。何週間かたつとデータがダウンロードできないということがございますので、皆様におかれましては、可能な範囲で、本日、ないし近日中にデータをダウンロードしていただければと思います。

万が一、データの有効期限が切れてしまって、データで見られないという場合には、御連絡いただければ、再送いたしますので、その際は事務局まで御一報ください。

最後に、評価書の集約ということで、皆様から御提出いただいた評価シートに関しましては、評価書という形で集約をして、コーディネーター事業に係る補助金の実績報告を行う際に、国及び東京都のほうに提出をさせていただければと思います。

また、評価書として取りまとめる際には、匿名で取りまとめますので、その点も御承知おきいただければと思います。

駆け足ですが、私からの評価方法についての御説明は以上とさせていただきます。

○会長 ありがとうございます。地域福祉コーディネーター事業について、評価をしていただきたいということです。評価方法について今説明がございましたけれども、確認したいこととか、御質問がありましたら、どうぞ、御自由に。ちょっと待ちますので、ゆっくり見ていただいて、御自身で書いていただかなければならないので、小さい御質問でも何でも結構ですので、お話しいただければと思います。どうぞ。

○委員 前年度出ていないので、分からないところもあるのですが、これはフォーマットとかがあって、こういう格好になっているのですかという質問です。

○会長 どうぞ。

○事務局 フォーマットについては、市の独自で決めております。重層的支援体制整備事業という社会福祉法に基づく事業を令和5年度から実施しておりますので、それに基づいて、コーディネーターの評価項目を最初の会議でお示し、その項目に沿った報告をして、また、評価シートについても、その項目に沿ったフォーマットになっております。

内容としては、いろいろな評価方法があるのですが、過去の市の行政評価の方法なども踏まえて、◎とか○とか△というような方式を採用しています。

令和5年度の重層前からやっておりますので、恐らくもう10年近くこのフォーマットでやっていると認識しております。

以上でございます。

○会長 よろしいでしょうか。

○委員 よく分かりました。

○会長 ほかにいかがでしょうか。今日報告をしていただいたものが評価シートの項目と対応していますので、まず、評価として大きく、かなり目標よりも評価ができるのではないか、あるいは大体評価は目標とほぼ同じ、普通ではないかというのと、ちょっと足りないのではないかという、そこをそれぞれの項目ごとに大きく評価していただいた上で、その中身をお感じになっていることを書いていただくということになっています。どうぞ。

○事務局 どういった内容を書けばいいのかという例もあるのですが、もしお持ちであれば、第2回の検討会の際に、これまでの委員がまとめた令和5年度の地域福祉コーディネーター事業の評価について報告書をまとめて、皆様のお手元に1回配っております。もしお手元があれば、そういったものを御覧いただきながら、比較的数行の文章を書かれている方もいらっしゃるれば、例えば「幅広く様々なニーズに応えられるような活動を

されていることは評価いたします」といったような簡潔な表現もありますので、皆様がお読みいただいて、感じられた内容をお書きいただければと思いますので、よろしくお願いたします。

○事務局 参考に、後ほど、前回の会議資料でお配りしているものを再度共有させていただきます。

○会長 そうしますと、地域福祉コーディネーター事業等の評価方法について、大体納得されたということでしょうか。——ありがとうございます。さっきのように参考資料をもう一回送っていただくということも含めて、それで期日までによろしくお願いたします。

それでは、その他の事務連絡に移りたいと思います。

議事4 その他事務連絡

○事務局 福祉総務課から事務連絡をさせていただきます。

まず、今回の会議が今年度最後の会議となります。令和6年度、ありがとうございました。また、来年度、令和7年度は3年に1度実施しております調布市民福祉ニーズ調査の実施年度となりますので、全6回、今年度が3回でしたので、倍の回数の会議を予定しております。皆様には、その分、御負担をおかけしますが、何とぞ御協力のほどよろしくお願いたします。

続きまして、御意見シートについてお伝えさせていただきます。本日、会場にお越しいただいている方には、お手元にお配りしておりますが、後ほどデータでも共有させていただきます。

今回の御意見シートに関しては、令和7年2月12日の水曜日までにデータやファクス等で御提出いただければと思いますので、よろしくお願いたします。

また、次年度の会議のスケジュールに関しては、会場の確保等、調整が済み次第、第1回の会議の場でお伝えできればと思います。

第1回の会議の日程については、開催通知をまたデータでお送りさせていただきますので、そちらを御確認ください。

事務連絡は以上でございます。

○会長 何か全体で、御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

それでは、以上で令和6年度第3回地域福祉推進会議を終了させていただきます。皆様、
どうもありがとうございました。

【閉会】

——了——